

# あだたら

発行所  
二本松市木ノ根坂  
あだたら山の会  
編集部

十一月二日(金)

## 薬師尾根登山道

### 刈払作業実施

報告 編集部



二日(金)、安達太良山薬師尾根で今年最後の登山道整備作業を実施した。範囲は二〇〇二(平成十四)年に登山道整備が行われた範囲で、ロープウェイ山頂駅から「樹氷坂」を登り上げた所迄。前々日に初冠雪した安達太良山登山道には薄く雪が積り一部には氷が

あった。それでも午前九時頃からは年配者中心の団体客が次々訪れ、雪に戸惑いながらもロープウェイ山頂駅から薬師岳山頂パノラマパークを目指す姿が見られた。作業は樹氷坂上から降りながら、山頂駅上の分岐から登りながら、登山道に



仙女平分岐にて、篠竹運んだ 阿部さん親子と

被さった灌木と笹の除去を行う。例年、年の最後になる薬師尾根の作業では刈り払い機を使用する。そのため登山客の少ないロープウェイ運行の最終平日に行っている。今年も例年になく登山者が多く、年配者から若者まで、雪が被さった登山道を「ありがたいございます」と感謝の声を掛けながら、元気に登っていった。例年最終の作業日になるこの日、積雪期登山に使用する目印用の篠竹も配置する。今年も会員が準備した



樹氷坂上で、町田さん

五十本を登山道の各所と樹氷坂上の道標に結びつけておいた。積雪期登山の目印に自由を利用して安全確保に努めて欲しいものだ。当会は今年も四月から毎月一回、登山道整備作業を実施してきた。今回も会員外も含めて、七名が参加した。

●編集部連絡先  
二本松市木ノ根1-5-15  
0243(22)4245  
渡辺 正

## 十一月二十三日(金)

### 装備点検

報告 編集部



今年の装備点検は十一月二十三日(金)勤労感謝の日。今年も二本松市中里の阿部健さん宅で開催された。午後二時には参加者が集まり、会場や料理の準備が始められた。装備点検は阿部さん宅物置の山の会ロッカー前で行われた。スノーシューの確認、テントを開いて再び格納、新しいヘルメットの確認等を行った。



13時48分準備中

焼肉とキノコ汁、ビール。日本酒・焼酎など。盛り上がった話が弾み、暗くなるまで賑やかに繰り広げられた。十二名が参加した。



十一月十一日 (日)

# 十一月山行、会津只見・蒲生岳

報告 中脇ゆき子



蒲生岳 駐車場前から、丸印が夫婦松

【参加者】中脇ゆき子、渡辺正(二名)  
 【行動】蒲生岳 寸感  
 良い天気だった。登山日和。蒲生岳からの只見川の眺望は素晴らしいと聞いた。楽しみにしていた。ところが登山道は岩登りだ。しかも傾斜がきつい。岩に赤い記が付けてありそれを辿れば歩き易いようにしてある。でも、私には無理！、岩にしがみついて動けない私に、時折脇をすり抜けてゆく人が「登りですか？下

りですか？」と声を掛ける。見かねたW氏が「ここから引き返そうと云う。引き返すのも難儀なことこの上ない。ふり向けばまさかさすまに落ちそうさ。只見川添いの紅葉の美しさ愛でる余裕ができたのは、帰途の車の中だった。ごめんさいWさん。頂上へ行けなかつたね。」

毎回眺めていた山だった。会津盆地から只見川に下りるには「七折峠」、蒲生岳手前の今は「滝バイパス」と言うらしいがそれ以前はトンネルの中に滝ダムへ下りる入口があった、そんな時代。二本松駅七時集合。高速道路使わずに、猪苗代出たところで道間違えて喜ぶ多方面へ行ってしまった。ほぼ一ヶ月前高寺山遺跡の現地説明会の時の記憶が優先してしまっただけだ。慌てて会津盆地を横断する県道三三三号に戻る。七折峠はトンネルでできていた、柳津・三島・会津川口、本名ダムの上通過して大塩から滝ダムを越えると正面に蒲生岳が見えてくる。大きな案内看板のある駐車場に十時到着。駐車場向いの「蒲生集会施設」にはいつでも利用できるトイレもある。建物の壁には大震災の年七月の水害で建物一階の床上一メートル程の所まで浸水したという表示があった。大変な水害だった。登山口は案内に従って踏切を渡る。すぐ麓に取り付く形になって登りが始まる。十分程で林を抜け、更に十分ほどで、岩場の道が始まる。岩にはステップが切られてあって、道筋は赤ペンキで示されている。傾斜は急で、落ち葉が少しあるが滑る程ではない。両側は背の低い灌木の藪、道の両側は切れ込んで「馬の背状態」



最高到達地点・夫婦松



岩壁の登り

登るに従って見通しが開けて来る。このあたりから中脇さんが遅れた。傾斜が急なほど「馬の背状態」の登山道の登り、初めてらしくてすくみ上がっている状態。結局下からもよくわかる「夫婦松」まで登って貰って、「ここで終わり」として。十一時十七分。標高は五七〇m。駐車場は三七〇m位だから二〇〇mほどの山登りだった。下って十二時三十六分線路際の二荒山神社を見つけて参拝、久しぶりに只見駅まで足伸ばした。昼食は「道の駅かねやま」まで戻って「ごぶし館」でおそば。柳津では「あわ饅頭」を買って、それでも一八時過ぎには帰宅出来た。(渡辺正)

十一月十九日 (月)

# 十一月山行、大滝根山

報告 中脇ゆき子



大滝根山山頂で昼食

【参加者】中脇ゆき子、渡辺正(二名)  
 【行動】登山口はいくつか有るようだが、沢コースを選んだ。登山開始九時五十分。沢の流れを右・左と越えてゆく。二十分程で賽の河原到着。ここまで順調。二体のお地藏様に手を合わせる。ここから急登。岩場がある。鎖が垂れている。「くさりにあまり頼らないように！」W氏の声が頭上から聞こえる。「蒲生岳」がよみがえる。もう歩けない。登れない。「こんな急斜面で立ち止まってるのはだめ。もう少し登って！」W氏の声。数センチ登る。「もう少し登って！」またもW氏の声。「立ち止まらないうで足を出して！」また

が殊の外おいしかった。下山は日山権現分岐から尾根をたどった。かなり急な道を下りる事になったが、笹や木の枝につかまり、助けられて、菜の河原に戻った。地藏尊にお礼。この後は登山口までかなり楽。十五時二本松駅着。

またW氏。もう少し。歩いてるうちに呼吸が楽になり、雑木林の中を歩いてきた。木の間から建物が見える。自衛隊のレーダー基地だ。山頂だ。十一時四十分。峯霊神社参拝後、休憩。風の無い陽だまりの草上で昼食。おむすびが日山権現の分岐。安全登山をお願いする。沢をどんどん詰める。十時五十分、御沢子育地藏。ここでも安全を祈った。ここから道は向かって右側の崖登りとなる。クサリ場、ザイル場の連続。木の根・笹に頼っての崖登りの連続。中脇さんは早々に音を上げ始めたが、蒲生岳と違ってここは直ぐそこが山頂だ。何度か急坂登っている内に左側奥にアンテナが見えた、駐屯地のパラボラだ。そこで気分転換になったか、少し元気がなった。十一時三十分には木立の中山頂稜線に着、やがて大滝根山峯霊神社に着いた。一等三角点は神社脇を出てレーダー基地のフェンス添いを少し歩くとフェンス越しに見える。昼食はレーダー基地を離れて南側、岳温泉からもよく見える風力発電の風車が見渡せる芝生の上、風もなく暖か。下りは日山権現経由の尾根筋、十二時二十分、急だが日当たりも良く道も乾いていて危ないところはない。三十九分には日山権現看板まで下る。ここからは登った鬼五郎沢へ下る事になる。根っこ毎岩から離れた「屏風根」、やがて十三時十分には賽の河原、二体のお地藏さんに御礼をして、二十六分には車の所まで戻った。(渡辺正)